

徳島市新ホール
建設候補地選定についての
意見書

平成29年5月17日
徳島市新ホール建設候補地検討会議

徳島市新ホール建設候補地選定についての意見書

はじめに

文化センターの利用中止以来、徳島市内には、1,000席以上規模の公共ホールのない状況が続いており、市民の鑑賞機会や文化活動など、文化の振興に大きな影響を及ぼしています。

このようなことから、徳島市では、平成28年11月の徳島市音楽・芸術ホール整備推進有識者会議からの提言を踏まえ、新ホールの平成35年度の開館を目指し、建設候補地の選定を進めています。

平成29年3月29日に設置された徳島市新ホール建設候補地検討会議では、建設候補地の選定のための検討において、徳島市が目指す新ホールの基本理念「市民の芸術文化の創造拠点」を踏まえて以下の3点を条件としました。

○ 「市民の芸術文化の創造拠点」・「県都のホール」として

県都にふさわしいホール施設機能とアクセス利便性の確保、ホールを拠点とした地域活性化の相乗効果を目指すこと。

○ 整備スケジュールについて

徳島市内に1,000席以上規模のホールがない現状を踏まえ、平成35年度開館を目標とした整備スケジュールが実現可能であること。

○ 財政負担・コストについて

ホールによる文化、教育、福祉、経済など様々な分野における効果を踏まえ、財政的に過度の負担とならない計画が可能であること。

そして、徳島市から示された3箇所の候補地を比較検討するため、①施設条件、②土地条件、③交通条件、④周辺条件、⑤整備コスト・期間 の5つの視点を設けて、各候補地の得失、課題を整理しました。

これらの検討結果に基づき、新ホール建設候補地の選定についての意見を申し述べます。

意見

【前提条件における検討について】

1 「市民の芸術文化の創造拠点」・「県都のホール」として

新ホールには、優れた芸術文化を鑑賞する場として、多くの市民が日常的に集まり、文化創造活動を行う施設として、大ホール、小ホール、創造支援ゾーン（活動室、スタジオ、リハーサル室、交流サロンなど）を備え、「市民の芸術文化の創造拠点」としての役割を果たすとともに、周辺地域への様々な効果が期待されるという視点から検討しました。

2 整備スケジュールについて

新ホールの早期開館を目指すため、平成35年度の開館目標に対して、手続きの難易度やリスクの可能性について検証しました。

3 財政負担・コストについて

各候補地でのホール整備にかかるコストについて、標準的なコストからの増加要因、低減要因について検討し、財政的に過度の負担とならない計画が可能であるかの視点から評価しました。

【各候補地についての意見】

文化センター敷地

1 「市民の芸術文化の創造拠点」・「県都のホール」として

幹線道路に面するという立地条件からシンボル性を演出しやすい場所であると思われます。

また、JR徳島駅からは比較的至近距離にあり徒歩でのアクセスが可能ですが、鉄道によりバリアフリー経路が確保できていない課題があります。

周辺には、徳島中央公園をはじめ公共施設が立地していることから、ホール整備公共エリアとして周辺施設との連携、さらに、将来的には周辺施設の再整備を踏まえたまちづくりの可能性についても検討することが期待されます。

ただし、敷地の形状や面積上の制約があること、北側の徳島中央公園（第一種住居地域）への日影規制への対応など、ホール施設の配置設計には建築上の検討が必要となります。

2 整備スケジュールについて

文化センター敷地は、市有地以外に県有地が含まれていることから、整備着工以前に、境界確定や土地利用の協議を行うことが必要です。これらの手続きが早期に完了すれば、平成35年度の開館までの施設整備完了に向けてのリスクは比較的小さいと思われる。

3 財政負担・コストについて

ホール施設の整備費用については、敷地面積と形状により、創造支援ゾーンなど一部主要機能を地下などに配置する必要があること、さらに、駐車場やバリアフリー経路の確保も必要であることから、建築コストの増加要因があります。このため、周辺の公共施設との連携も視野に入れた段階的な施設計画を考えるなど、長期的な視点における整備についても検討するべきであると考えられます。

旧動物園跡地

1 「市民の芸術文化の創造拠点」・「県都のホール」として

旧動物園跡地は、徳島駅からやや離れた所にあることから、中心市街地のまちづくりへの直接的な寄与度は低いと考えられます。徳島市が進めるひょうたん島川の駅ネットワーク構想における川の駅（候補地）との連携等、文化と水辺の交流エリアとして位置づけた整備の方向を目指すことが望まれます。

3候補地の中では敷地面積が最も広く、ホールの施設機能をゆとりを持って整備することが可能となります。このため、建設予定地として選定する場合には、敷地の広さを活かして、ホールに加え、魅力ある付加価値を備えた整備の可能性や、さらには、徳島駅からの徒歩アクセス改善のため、徳島中央公園を含む徒歩ルート整備の可能性についても検討するべきであると考えます。

ただし、利用者のアクセス性確保のため駐車場の整備の必要性があること、それに伴って周辺道路の渋滞や居住環境への影響が生じることが想定され、この課題の解決のため十分な対策を考える必要があります。

2 整備スケジュールについて

この候補地は、都市計画法上の手続き（用途地域の変更や用途規制の例外許可、都市計画公園の変更）に一定の期間を要するとともに、周辺道路の拡張や交通規制、渋

滞対策への対応が必要となります。

周辺に一般住宅が多く、規制緩和等の手続きでは、ホール整備により直接的な影響を受ける地区住民が多く存在することから、慎重な対応が必要不可欠であり、手続きが長期化する可能性もあります。

3 財政負担・コストについて

敷地面積が広くゆとりを持った設計が可能なことから、他の候補地と同程度のホールを建設する場合の建築コストは比較的低廉となることが予想されます。ただし、駐車場の整備費用に加えて、周辺道路の整備など、周辺環境への影響の緩和施策に関する費用が必要となることも想定されます。

徳島駅西側駐車場

1 「市民の芸術文化の創造拠点」・「県都のホール」として

徳島駅西側駐車場は、市内・広域交通ネットワークの要であるJR徳島駅ターミナルビルと隣接し、徳島市の中心市街地の核となる鉄道駅と連結したホールを整備できる点で、市内に加え、周辺地域からも利用者の利便性が最も高く、その結果、催事のみならず日常的な文化交流拠点として、周辺地域の商業やビジネスを活性化させ、さらに、徳島市における公共交通利用の促進や中心市街地の活性化に向けた多様な政策に寄与することが期待できる点で優れています。

特に、ホールでの鑑賞の際に、開演前の待ち合わせや終演後の余韻を楽しむことができる周辺環境も重要な要素であるという点では、候補地の中で唯一条件を満たす場所であると考えられます。

ただし、敷地の形状や面積上の制約、周辺道路への影響、北側の徳島中央公園（第一種住居地域）への日影規制への対応、駅前広場への接続性の確保などを踏まえたホール施設の配置設計には建築上の検討が必要となります。

これらの課題に対応するため、隣接する施設と連携・協働した官民連携による施設整備の可能性についても検討するべきであると考えます。

2 整備スケジュールについて

この候補地は、土地所有者との協議や費用負担など、事業推進上の不確定要素があります。しかし、立地条件として魅力の高い場所であることから、建設予定地として選定する場合には、土地所有者との合意形成や事業費の検討を早急に進め、事業の実現性を早期に見極めていくことが必要であると考えます。

3 財政負担・コストについて

土地に関する必要経費については、JR四国をはじめ土地所有者との取得または賃借するかの協議がなされていない段階ですが、用地の取得費用に加えて、既存施設の撤去移転費用等の考慮が必要であり、他の候補地と比較して、総事業費としては高価となります。しかしながら、上述の中心市街地への波及効果を踏まえて、総合的に検討するべきであると考えます。

終わりに

新ホール建設候補地検討会議では、「文化センター敷地」、「旧動物園跡地」、「徳島駅西側駐車場」の3つの候補地について、新ホールが、基本理念である「市民の芸術文化の創造拠点」としての役割を果たすことのできる場所であること、早期の開館プロセスが見込めること、そして、過度の財政負担を伴わないこと、これらの前提条件において、複数の視点から検討を行ってきました。

提案された3つの候補地には、それぞれメリット、デメリットがありますが、新ホールを単なるハコモノとして整備するのではなく、徳島市まちづくり総合ビジョンの将来像である「笑顔みちる水都とくしま」の実現に向けて、「市民の芸術文化の創造拠点」が徳島市の「まち」「ひと」「もの」にもたらす様々な相乗効果を念頭に、県都徳島市のホールとして、ふさわしい建設場所を選定すべきと考えます。

特に、ホールは、子供たちから高齢者まで、障がいのある人もない人も、また、個人を取り巻く社会的状況等にかかわらず、文化を通じて社会参加の機会を開く社会包摂の機能を有する基盤施設として大きな役割を担っています。このようなことから、将来を担う子供たちが一流の文化に親しみ、文化活動ができる施設として、また、高齢者や障がいのある人が気軽に来館し、芸術文化に親しむことのできる施設として、市内のみならず、周辺地域からも人々が集える施設として、交通アクセスの利便性や、集いのエリアとして周辺施設が充実していることは、非常に重要であると考えます。

これらの視点から、徳島駅西側駐車場は、新ホール整備と将来のまちづくりへの相乗効果の面で、大きな可能性を期待できる候補地であるという意見が多く委員から表明されました。

なお、各候補地とも建築設計、早期整備、整備費用増加に関わる課題があり、その解決の見通しについて十分検討する必要があります。特に、徳島駅西側駐車場を候補地と

して選定した場合には、現段階では不確定な要素も多くあることから、まずは、関係者との協議を早急に開始し、一定の期限を設けて、不確定要素である部分の検討を進めるとともに、事業期間、財政負担を含めた事業の実現性を見極めることが必要と考えます。

徳島市が新ホールの建設候補地を選定するにあたっては、以上のことを踏まえて、総合的に判断すべきであると考えます。その判断結果は、わかりやすく市民に説明されることも希望します。

なお、早急なホール整備が望まれている状況を踏まえ、平成35年度の開館目標が実現可能なスケジュールを重視して、今後の計画を進められることを特に要望します。さらには、新ホールの建設地以外の候補地についても、徳島市の中心部のまちづくり施策として、その利活用の方向を検討することも併せて要望します。

徳島市新ホール建設候補地検討会議開催概要

	開催日	議題等
第1回	平成29年3月29日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ○新たなホールの基本方針等について ○建設候補地の概要について ○建設候補地の検討の視点について
第2回	平成29年4月17日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ○建設候補地の検討について <ul style="list-style-type: none"> ・土地条件、交通条件、整備期間
第3回	平成29年4月24日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ○建設候補地の検討について <ul style="list-style-type: none"> ・整備費用、周辺条件、施設条件
第4回	平成29年5月11日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ○意見書(案)について <ul style="list-style-type: none"> ・意見のまとめ
第5回	平成29年5月17日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ○市長への意見書提出 ○市長との意見交換

徳島市新ホール建設候補地検討会議設置要綱

(設置)

第1条 徳島市における新たなホールの建設候補地の選定にあたり、有識者による検討を行うため、徳島市新ホール建設候補地検討会議（以下「検討会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 検討会議は、次に掲げる事項について専門的見地から検討し、意見を述べる。

- (1) 新たなホールの建設候補地を選定するために必要な事項。
- (2) その他検討会議において必要と認める事項。

(組織)

第3条 検討会議は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 文化、建築、経済等各分野の代表者
- (3) その他市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、本要綱の施行日からその任務が達成されたときまでとする。

(会長及び副会長)

第5条 検討会議に会長及び副会長を置く

- 2 会長は、委員の互選によって定める。
- 3 副会長は、委員の内から会長が指名する。
- 4 会長は、検討会議を代表し、会務を総括する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 会長は、必要に応じて検討会議を招集し、その議長となる。

- 2 検討会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 3 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の関係者の出席を求め、関係事項について説明又は意見を聞くことができる。

(守秘義務)

第7条 委員は、その職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(庶務)

第8条 検討会議の運営に関する事務は、市民環境部文化振興課において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、検討会議の運営等に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成29年3月29日から施行する。

徳島市新ホール建設候補地検討会議委員

(敬称略：五十音順)

氏 名	団体・役職名	備 考
生駒 元	徳島交響楽団 専務理事	
小西 誠一	一般社団法人徳島県建築士事務所協会 会長	
佐藤 勉	公益財団法人徳島県文化振興財団 理事長	
高畑 富士子	阿波女あきんど塾 キャスト	
田村 耕一	公益財団法人徳島経済研究所 専務理事	副会長
中村 太一	徳島商工会議所 会頭	
山中 英生	徳島大学理工学部 教授	会 長